

日本の女子サッカーの登録人口に関する研究

A Study about Women's Soccer Population in Japan

1K05B159

指導教員 主査 間野義之先生

中島 幸子

副査 堀野博幸先生

【1、背景】

アテネ五輪や北京五輪でのなでしこジャパンの活躍により、女子選手の競技人口の増加やフットサルの人気につながった。そして、さらなる女子サッカーの普及・発展のために、日本サッカー協会ではさまざまな施策を行っている。「なでしこ vision ～世界のなでしこになる～」では、「2015 年、女子のプレーヤーを 300,000 人にする」ことが目標の一つとして掲げられている。しかし、女子選手の登録者数は 2008 年度の時点で 35,944 人と 30 万人にはとても及ばない。特に中学生年代で極端に少なく、女子中学生がサッカーをする環境が明らかに少ない。

【2、研究目的】

本研究の目的は、登録人口の分析を行うことで登録人口が増える要因や傾向、女子サッカーチームや登録人口の多い地域や年代の特徴、登録人口から分かる問題点を導き出し、中学生年代の登録人口を増加させるためには何が必要かを明らかにすることである。

【3、研究方法】

本研究では、日本サッカー協会の登録人口のデータを用いて、女子選手の登録人口を中心に分析を行う。分析する項目は、女子の総登録人口、総人口中の女子登録人口の割合が上位 5 都道府県の登録人口、なでしこリーグに加盟しているチームを有する地域の登録人口である。また、各都道府県サッカー協会が行っている女子サッカーの活動推進のための具体的活動例を調

べた。

【4、結果】

女子の総登録人口の推移には、1994 年から 2000 年と 2002 年から 2006 年の間で大きな増加が見られた。女子のどの年代でも増加傾向にあり今後も登録人口が増加していくことが予想される。女子小学生の登録人口に関しては男子チームに所属している選手のほうが多い。また、上位 5 都道府県に地域的な特色は見られず共通点も特になかったが、上位 2 位の沖縄県と静岡県では男子サッカーの登録人口の割合も高かった。なでしこリーグに加盟しているチームを有する地域は、必ずしも登録人口が多いというわけではなかった。

【5、考察】

大規模な世界大会での男女サッカーの活躍が女子の登録人口に大きく影響する。男子チームに所属する女子小学生は 2002 年から増え続け、2008 年には 9,348 人にもなっている。これは、年代別の女子登録人口の中で最も多く、女子チームに所属する女子小学生選手数を合わせると、14,316 人にもなる。この全てが女子チームに所属していれば、女子中学生の登録人口は現在よりも多くなると予想される。上位 2 位の沖縄県と静岡県で男子サッカーの登録人口の割合も高かったことから、男子の登録人口は女子の登録人口に影響すると考えられる。また、女子サッカーにおいては、登録人口数、登録人口の割合ともに競技レベルの高さには左右されな

いことが言える。女子サッカーの普及のための具体的活動例には、少女年代の普及や少人数制サッカー大会を採っており選手数が少なくてもサッカーが出来るような工夫をしている。

【6、まとめ】

女子の登録人口の特徴として注目すべき点は二つある。一つは、女子の登録人口には男子の登録人口も影響するという点である。そして二つ目は、小学生年代の女子の登録人口である。男子チームに所属する女子小学生は年々増加し続けており、この女子小学生達が、全て女子チームに所属できるようになれば、その後中学生になってもそのまま女子チームでプレーできるようになり、中学生年代でサッカーが出来る環境がなくなるという状態が解消され、女子中学生年代の登録人口も増加していくことが期待される。また、女子の登録人口を増加させるためには、女性がサッカーをしやすい環境をサッカー界全体で作っていくことが重要である。